

4校を総合した結果分析と今後の取り組みについて

西連携型小中一貫校

1 コミュニティ・スクールの推進を基盤とした小中一貫教育の充実

4校が目指す子ども像「未来を切り拓く力をもった子どもの育成」の実現に向け、「コミュニティ・スクール」の推進と「小中一貫教育」の充実に取り組んできました。各校の取組については、授業参観をしていただく数は限られていますが、毎日のホームページをはじめ、学校通信や地域の回覧板等でご覧いただいているいます。

今年度は、保護者の皆様のご理解とご協力により、感染症や熱中症等の予防に努めることができ、各校の教育活動がほぼ予定どおり実施できました。地域行事が減少していることもあります、「地域行事への参加」が、保護者78%、児童生徒77%と、昨年同等で課題となっています。

令和8年度も、地域・保護者の皆様、地域づくりセンターと連携・協働して、子どもが地域でも活躍できる場をつくっていきます。



2 自ら学び自ら考える子の育成

「これまでの学習、これから学習」のように学習のつながりを示すことや、「授業の始めにめあてが示され、最後にまとめや振り返りがある」ことで、子どもたちが見通しをもって主体的に学習に取り組む姿が増えてきました。「自分の意見や考えを積極的に発表すること」(児童生徒70%)、「進んで読書すること」(児童生徒70%)については、昨年と同じで低い傾向が見られました。また、「家読」に関して、保護者は62%であり、子どもたちが読書をしやすい環境づくりが地域、学校、家庭で連携して取り組まなければならない課題となっています。

令和8年度は、児童生徒の自己肯定感を高め、互いを認め合える良好な関係を築きながら、「表現する力」を育み、安心して発言できる学級づくりに努めています。また、本好きの児童生徒が増えるよう、「朝読書」「西ドリームネットボランティアによる読み聞かせ」を継続するとともに、「家読の日(毎月第4土曜日)」をはじめ、家庭と連携して本を手に取りやすい環境を作っています。

3 心豊かで思いやりのある子の育成

「いじめのない学校づくり」への取組について、保護者77%、児童生徒98%という結果でした。いじめ問題対策に一定の評価を得ているものの、一人一人を大切にし、「いじめ見逃しがゼロ」を目指すためには、今後も、丁寧な指導・支援の継続が必要であると考えます。また、学校では、児童生徒が互いに思いやり、優しい気持ちをもって接する場面をたくさん見かけますが、「友だちのよいところを紹介し合うなどの活動をしている」が55%と低く、どの活動がそれに当たるのか理解されていないこともあります。

令和8年度も、児童会・生徒会活動、委員会活動、学級活動などにおいて、「仲間を大切にする」「友だちを思いやる」ことに気付けるような子ども主体の活動を取り入れていきます。年2回の人権集中学習と「西中サミット」、「いじめ問題解決に向けた子ども会議」をつながりのあるものにすることで、児童生徒主体のいじめ対策をさらに進めています。

4 健康でたくましい子の育成

「スマホやインターネットの安全な使い方や危険性、ルールづくり」が保護者79%、児童生徒88%と、SNSに対する意識が高くなっています。それに伴い、「ゲームやオンラインゲームなどをすることは、家の人と遊ぶ場所や時間などを決めて遊んでいますか」については児童生徒80%となっていました。今後も、家庭内でのルールづくりと学校での情報活用の指導とが課題となります。

令和8年度は、ルールの必要性とともに身体と脳が作られる学童期の健康が守られるように、家庭と連携して取り組んでいきます。併せて、日常生活の中で、交通ルールや交通マナーを守れるよう、家庭及び登下校の見守りボランティアと連携し、注意喚起をしていきます。